

平成 27 年度

二戸地域県立病院運営協議会

日 時 平成 27 年 12 月 22 日 (火)
14:30~16:30
場 所 岩手県立二戸病院会議室

次 第

- 1 開会
- 2 委員及び職員紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 岩手県立二戸病院長あいさつ
- 5 医療局長あいさつ
- 6 議事
 - (1) 二戸地域における県立病院の運営について
 - (2) その他
- 7 閉会

[別添資料]

二戸地域県立病院の業務状況等 (運営協議会参考資料)

二戸地域県立病院運営協議会委員席 配置表

議長

傍聴者席

岩手県議会議員
五日市 王 委員
岩手県議会議員
工藤 大輔 委員
岩手県議会議員
工藤 誠 委員
二戸市社会福祉協議会長
山口 金男 委員
一戸町社会福祉協議会長
林野 榮五郎 委員
軽米町社会福祉協議会長
菅原 皓文 委員
九戸村社会福祉協議会長
木村 正樹 委員
二戸市地域婦人団体協議会副会長
田中 館和子 委員 (代理)
一戸町地域婦人団体協議会長
山田 ミドリ 委員
新岩手農業協同組合女性部軽米支部長
永井 美保子 委員
九戸村地域婦人団体協議会長
佐々木 トマ 委員

(代理)

二戸市長
藤原 淳 委員
一戸町長
稲葉 暉 委員
軽米町長
山本 賢一 委員
九戸村長
五枚橋 久夫 委員
二戸市保健委員協議会長
田口 和子 委員
一戸町保健推進委員会会長
八森 百合子 委員
軽米町保健推進員協議会長
佐藤 勝子 委員
九戸村保健推進員協議会長
岩澤 ヒロ 委員
県北広域振興局副局長
玉懸 博文 委員
二戸保健所長
鈴木 宏俊 委員

報道関係者席

※委員22名中、出席21名

入口

医療局 職員課 総括課長	医療局長	二戸病院長	一戸病院長	軽米病院長
小笠原 一行	八重樫 幸治	坂本 隆	小井田 潤一	横島 孝雄

二戸病院 副院長	二戸病院 副院長	二戸病院 副院長	二戸病院 総看護師長	一戸病院 総看護師長	軽米病院 副総看護師長	一戸病院 事務局長	軽米病院 事務局次長	二戸病院 事務局長
高橋 浩	及川 浩	佐藤昌之	畠山美智子	林本郁子	逢坂幸子	小笠原秀俊	高橋 浩	佐藤秀明

二戸病院 副院長	二戸病院 副院長	二戸病院 栄養管理室次長	二戸病院 臨床検査技師長	二戸病院 診療放射線技師長	二戸病院 薬剤科長	九戸地域 診療センター 事務長	二戸病院 医事経営課長	二戸病院 総務課長
佐藤直夫	藪田昭典	阿部千佳子	志田健夫	菊池正彦	田中 博	中野栄司	小倉和彦	後藤利徳

医療局 経営管理課 主査	二戸病院 リハビリテーション 技師長	二戸病院 事務局次長
澤田 厚	稲見雅浩	十和田順子

二戸地域県立病院運営協議会 委員名簿

任期：平成28年3月31日まで

	区 分	職 名	氏 名	備 考
1	学 識 経 験 者	県議会議員	五日市 王	
2		県議会議員	工 藤 大 輔	
3		県議会議員	工 藤 誠	
4	市 町 村 長	二戸市長	藤 原 淳	会長
5		一戸町長	稲 葉 暉	
6		軽米町長	山 本 賢 一	
7		九戸村長	五枚橋 久 夫	
8	関係行政機関 の 代 表 者	県北広域振興局副局長	玉 懸 博 文	
9		二戸保健所長	鈴 木 宏 俊	副会長
10	医療関係団体 の 代 表 者	二戸医師会会長	松 井 美紀夫	
11	社会福祉関係 団体の代表者	二戸市社会福祉協議会会長	山 口 金 男	
12		一戸町社会福祉協議会会長	林 野 榮五郎	
13		軽米町社会福祉協議会会長	菅 原 皓 文	
14		九戸村社会福祉協議会会長	木 村 正 樹	
15	婦 人 団 体 の 代 表 者	二戸市地域婦人団体協議会会長	阿 部 壽 子	
16		一戸町地域婦人団体協議会会長	山 田 ミドリ	
17		新岩手農業協同組合女性部軽米支部長	永 井 美保子	
18		九戸村地域婦人団体協議会会長	佐々木 ト マ	
19	その他の団体 の 代 表 者	二戸市保健委員協議会会長	田 口 和 子	
20		一戸町保健推進委員会会長	八 森 百合子	
21		軽米町保健推進員協議会会長	佐 藤 勝 子	
22		九戸村保健推進員協議会会長	岩 澤 ヒ 口	

県立病院運営協議会等要綱

(協議会の設置)

第1条 二次保健医療圏内の県立の病院の円滑な運営を図り、もって地域住民の医療及び保健衛生の向上に寄与するため、別表に掲げる病院に県立病院運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について、協議会を置く病院の長（以下「病院長」という。）の諮問に応じ、又は建議することができる。

- (1) 二次保健医療圏内の県立の病院の円滑な運営に必要な事項
- (2) 保健衛生活動の協力に関する事項
- (3) その他病院長が必要と認める事項

(組織)

第3条 協議会は、原則として委員25人以内をもって組織する。

2 委員は、市町村、関係行政機関、社会保険団体、医療関係団体、社会福祉関係団体、学校、事業所、婦人団体青年団体等の代表者及び学識経験者のうちから医療局長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選とする。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会は、病院長が招集する。

2 会議は、定例会及び臨時会とし、定例会は年1回、臨時会は必要に応じて招集する。

3 会議は、必要に応じて他の協議会と合同で開催することができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、病院において処理する。

(地域懇談会)

第8条 県立の病院の運営に関し、地域住民から意見、提言等を得て病院運営上の参考とするため、病院に県立病院地域懇談会を置く。

2 県立病院地域懇談会の組織及び運営に関し必要な事項は、病院の長が定める。

附 則

この規程は、昭和46年4月12日から施行する。

この規程は、昭和57年1月16日から施行する。

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

この規程は、平成16年5月1日から施行する。

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

別表（第1条関係）

病 院
岩手県立中央病院
岩手県立宮古病院
岩手県立大船渡病院
岩手県立胆沢病院
岩手県立中部病院
岩手県立久慈病院
岩手県立磐井病院
岩手県立釜石病院
岩手県立二戸病院

平成 27 年度 岩手県立二戸病院事業運営方針

1 基本理念・運営の基本方針

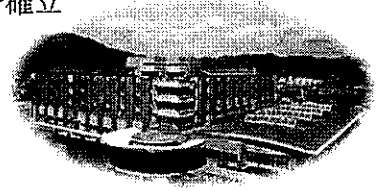
岩手県立二戸病院は、県立病院等事業の創業の精神のもと、二戸圏域における当院の役割を果たすための基本理念を掲げ、地域に深く根ざし、安心と信頼の高い医療機能と豊かな人間性を兼ね備えた、ぬくもりのある医療の実現を目指します。

《岩手県立二戸病院 基本理念》

- 1 信頼と満足が得られる患者中心の医療の提供
- 2 診療機能の充実を図り、地域医療・福祉・保健機関との連携
- 3 療養環境の充実した快適な病院づくり

《運営の基本方針》

- 1 良質で満足度の高い医療サービスの提供
- 2 収入の確保と費用の抑制を図り安定した経営基盤を確立
- 3 幅広い地域医療サービスの展開
- 4 県立病院群の一体的・効率的な運営の確立
- 5 環境に配慮した病院づくり
- 6 災害拠点病院としての体制の充実



2 平成 27 年度事業運営方針

平成 27 年度事業運営方針の策定に当たっては、当院の機能及び役割を踏まえ、平成 26 年 3 月に策定された「岩手県立病院等の経営計画 2014-2018」に掲げる 5 つの基本方向に沿って、事業運営方針及び重点取組事項を定め、効果的な病院運営を推進します。

各部門が策定する BSC（部門業務運営方針）による取組は、この事業運営方針の方向性に沿って進められます。

- 当院は、岩手県北の二戸（カシオペア）保健医療圏の基幹となる病院として、救急・急性期医療や、地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター等の専門的医療を提供する機能を担っているほか、臨床研修病院や二戸高等看護学院の実習施設等として医療従事者を養成・教育する役割も果たしてまいります。
- 災害時には、地域災害拠点病院としての機能や、被災地へDMATや医療スタッフを派遣する支援機能も確保してまいります。
- 二戸地域の特性に応じた当院特有の使命も果たすため、地域に密着した病院運営を推進してまいります。
- 平成 27 年度においては、患者動向等や地域医療構想策定の進展を踏まえ、持続的な医療提供体制に資する病床機能の適正化を推進します。

「岩手県立病院等の経営計画 2014-2018」における 5 つの基本方向

- 1 県立病院間・他の医療機関を含めた役割分担と地域連携の推進
- 2 良質な医療を提供できる環境の整備
- 3 医師不足の解消と医師の負担軽減に向けた取組の推進
- 4 職員の資質向上と人員の重点配置
- 5 安定した経営基盤の確立

平成 27 年度 岩手県立二戸病院事業運営方針 《重点取組事項》

1 県立病院間・他の医療機関を含めた役割分担と地域連携の推進

重点事項	展開方向	主な指標
(1) 県立病院の一体的・効率的な運営	① 圏域病院（一戸病院、軽米病院及び九戸地域診療センター）への支援の継続 ② 介護・福祉との連携強化 ア 地域包括ケアネットワークへの参画 イ 地域医療福祉連携組織の強化 ③ 地域がん診療連携拠点病院の更新及び体制強化 ④ 圏域を越えた連携 沿岸病院への視能訓練士の応援	① 診療応援（一戸、軽米及び九戸センター） ・業務応援（薬剤、放射線、検査、栄養、臨床工学技士、医療社会事業士、言語聴覚士）・相互応援（検査、栄養） ② 退院調整看護師による円滑な連携 ・カシオペア地域医療福祉連携研究会の活動推進 ③ がん相談支援センター相談員 2 名養成
(2) 地域の状況や各病院の特色等に基づいた各病院が担うべき役割と機能	① 医療提供体制の改革への対応 ア 地域医療構想の動向を注視し、医療・福祉・介護の連携のあり方の見直し イ 病床機能報告制度への対応 ② 病床規模の適正化 病床利用率や患者数動向に応じた病床数の見直し ③ リハビリテーション広域支援センター事業の継続	② 下半期を目途に適正病床数を議論 病床利用率 78.0%
(3) 他の医療機関・介護施設等との役割分担と連携	① 介護・福祉との連携強化【再掲】 ア 地域包括ケアネットワークへの参画 イ 地域医療福祉連携組織の強化	
(4) 地域との協働による病院運営	① 運営体制に関する地域の理解の促進と協働の推進 ア 広報活動の強化 イ ボランティアとの協働 ウ 「がんサロン」開設の検討 ② 地域の意見を病院運営に反映 ア 運営協議会の開催 イ モニター懇談会の開催	① ア・病院公開事業の継続実施 ・ホームページによる情報発信、地元メディア等の積極的活用 ・病院広報の定期発行 イ ボランティア委員会の定期的開催、受入の拡充及び活動支援

2 良質な医療を提供できる環境の整備

重点事項	展開方向	主な指標
(1) 患者中心の安全・安心な医療の提供	① 医療の質の確保 ア 病院機能評価受審（28 年度）	① ア・次年度の受審に向けた取組推進 ・組織、委員会等の要綱の見直し

重点事項	展開方向	主な指標
《続き》 (1) 患者中心の安全・安心な医療の提供	イ クリニカルパスの活用推進 ウ 地域がん診療連携拠点病院の更新及び体制強化【再掲】 エ 「がんサロン」開設の検討【再掲】 オ リハビリテーション提供体制の強化 ② 診療録管理体制の強化 ③ 医療安全対策・感染対策の推進 ④ 患者満足度の向上 ⑤ インフォームド・コンセントの推進	イ・地域連携パスの導入推進 (脳卒中・がん) ・パス適用率 50%以上 ④ 患者満足度調査の基本的な接し方「不満・やや不満」の割合 4.5%以下 ⑤ 患者満足度調査のインフォームド・コンセント「不満・やや不満」の割合 4.5%以下
(2) 医療情報システムの整備	① 電子カルテの機能向上 ② 電子カルテの運用体制強化	①・電子カルテの更新 ・動作の安定化対策 ②・外来常設全診療科の供用開始 ・不具合発生時の対応を明文化
(3) 設備・機器の更新	① 電話交換設備更新	① 上半期に仕様等を検討し、下半期に設備更新

3 医師不足の解消と医師の負担軽減に向けた取組の推進

重点事項	展開方向	主な指標
(1) 医師確保に向けた取組	① 関係大学への派遣要請 ② 圏域内地域病院への診療応援の継続	
(2) 魅力ある勤務環境への改善	① 医師の業務負担の軽減 ア 各職域の人材育成方針に沿った認定専門資格の取得の支援 イ 医療クラークの体制強化	イ 医療クラークの増員及び研修の定期的実施

4 職員の資質向上と人員の重点配置

重点事項	展開方向	主な指標
(1) 人づくり	① 計画的な人材育成 ア 圏域内での相互業務応援体制の継続 イ 各職域における人材育成計画や業務運営方針に基づく育成への支援【再掲】	イ 認定看護師、認定薬剤師、認定診療放射線技師、認定検査技師等の養成
(2) 働きやすい職場環境	① 職場満足度の向上 ② 選択可能な多様な勤務形態 ③ 仕事と生活の調和 ④ 職員の健康サポート ⑤ 看護師の業務負担の軽減	③ 超過勤務縮減の取組 ④ 職員定期健康診断等の実施とフォロー、メンタルヘルスケアの取組
(3) 職員の適正配置	① 医療技術部門の充実	① 病棟薬剤業務導入に向けた取組

5 安定した経営基盤の確立

重点事項	展開方向	主な指標
(1) 事業運営体制の整備	① 経営企画機能の強化 ② 病院マネジメントの推進	① ・医事業務委託による経営支援業務の拡充 ・SPDデータ活用、ベンチマークによる経営分析及び改善活動の推進 ② 幹部職員の経営マネジメント研修派遣
(2) 収支均衡に向けた取組	① 収益の確保 ア 新入院患者の確保及び診療単価の増 イ DPCベンチマーク分析 ウ クリニカルパスの活用推進【再掲】 エ 指導料算定の強化 オ SPDデータ活用による評価と改善 カ 請求精度の向上 キ 特別室の利用推進 ク 公衆衛生活動の継続実施 ケ 特別メニューの充実による選択率向上 ② 費用の効率的執行 ア 超過勤務縮減の取組 イ 材料費の抑制 ・ 後発医薬品の使用拡充 ・ SPDデータを活用した同種同効品の整理統一 ウ 経費の節減 エコマネジメントシステムに基づく取組 エ 業務委託の円滑な導入支援 一戸病院栄養管理室への業務支援 ③ 未収金の縮減 病院全体での発生防止対策、回収の取組強化	① ア ・入院診療単価 44,000 円 ・外来診療単価 8,600 円 ・1 療法士 1 日平均単位数の増加 (リハビリ) ・施設基準への適切な対応と上位基準の取得検討 イ ・コーディング精度の向上及び係数引上げの取組 ・経営改善活動の推進 エ がんりハビリテーション施設基準の取得に向けた取組 オ 費用との突合による収益確保の取組 カ 委託業者との合同検討会の開催 ケ 選択率 35%以上 イ ・後発医薬品の使用拡充 70.3%以上 ・薬品費対医業収益比率 13.0%以下 ・資産減耗費対薬品購入額 0.1%以下 ・診療材料等検討委員会による取組推進 ・診療材料費対医業収益比率 10%以下 ウ ・CO ² 使用料削減△1.1% ・紙類のリサイクル等分別の徹底 ③ 個人未収金残高対前年度比 △3%減

平成27年度岩手県立二戸病院附属九戸地域診療センター事業運営方針

理 念

- 1 患者さま本意の安全で優しい医療の提供を
- 2 地域に密着した質の高い医療を
- 3 活力ある明るい職場を

キャッチフレーズ（基本理念）

『ふれあい』『やさしさ』『やすらぎ』

平成27年度事業運営方針

<事業分野>

- | |
|---------------------------|
| I 良質な医療が提供できる環境の整備 |
| II 診療体制の確保 |
| III 効率的な医療提供体制の構築 |
| IV 職員の資質の向上等 |
| V 地域に信頼され、愛される地域診療センターづくり |

<事業分野別の取組方針・重点事業等>

I 良質な医療が提供できる環境の整備

【ねらい】 ●患者中心の安全、安心な医療の提供 ●機能に応じた役割分担と連携の提供推進	【主な指標】 ◆患者満足度（不満足度5%以下） （基本的な接し方、インフォームドコンセント）
重点事業	事業内容、展開方法等
1 医療安全対策の推進 2 役割分担と連携の推進	①マニュアル（医療安全・院内感染防止）に基づく医療安全対策の実施 ①地域診療センターとしての機能及び運営体制の確立（プライマリーケア一次救急、訪問診療及び保健・福祉との連携） ②本院を中心に、圏域内医療機関との一層の連携推進 ③村等の関係機関、住民に対する診療所機能の周知及び協力関係の構築

II 診療体制の確保

【ねらい】 ●医師の確保	【主な指標】 ◆医師配置数（常勤2名及び常勤換算3名以上）
重点事業	事業内容、展開方法等
1 診療応援の確保 2 常勤医師確保	①県立病院や関係大学からの診療応援継続 ①村とも連携した情報収集の取組強化等

Ⅲ 効率的な医療供給体制の構築

【ねらい】 ●効率的な診療所運営	【主な指標】 ◆一日平均患者数（外来 63人） ◆経常収支（収支均衡を目指す）
重点事業	事業内容、展開方法等
1 組織の効率的運営	①本院との一体的運営体制の定着（診療機能・業務分担明確化と連携強化） ②各種会議等における本院との連携
2 収入の確保	①診療報酬の適正算定（関係部門との情報共有とレセプト精度管理の継続） ②各種保健事業の継続実施（村内における予防接種等保健事業、学校医など）
3 費用の抑制	①医療材料等の効率的選択と適正定数管理
4 未収金の縮減	①新たな未収金発生防止と計画的回収等の促進

Ⅳ 職員の資質の向上等

【ねらい】 ●職員の資質と満足度の向上	【主な指標】 ◆職員満足度
重点事業	事業内容、展開方法等
1 職員研修への参加	①本院で開催する研修会への参加
2 自己研修の奨励	

Ⅴ 地域に信頼され、愛される地域診療センターづくり

【ねらい】 ●保健・福祉との連携 ●地域への密着	【主な指標】
重点事業	事業内容、展開方法等
1 保健・福祉との連携強化	①中学校・高等学校の学校医、出稼ぎ者検診、予防接種等保健事業への貢献 ②特別養護老人ホームの嘱託医、訪問看護ステーション及び介護保健事業等福祉事業への貢献 ③医療・保健・福祉の相互の連携強化（九戸村地域ケア会議、サービス担当者会議、九戸村自立支援医療（育成医療）等支給認定審査への参加及び協力など）
2 地域、住民との密着	①センター二階に設置されている地域密着型特別養護老人ホーム「おりつめの里」との定期（連絡）会議を通じた施設（地域）イベント情報等の共有

○ 平成27年度 岩手県立一戸病院事業運営方針

〔基本理念〕「安全で安心できる温かい病院をめざして」

- 〔基本方針〕
- 1 患者さんの人間性を尊重し、まごころのこもった患者中心の医療を展開するとともに、何でも相談に来てもらえる信頼される病院づくりに努めます。
 - 2 職員が働きがいを持てる職場環境づくりに努めます。
 - 3 最新の医療動向、地域の実情などに応じた改革改善の取り組みを継続し、経営の効率化に努めます。
 - 4 患者さんの地域での暮らしを支えるため、保健・医療・福祉との連携を密にします。

〔重点取組事項等〕

取組事項	展開方向	目標数値等	主な担当部門
I 県立病院間の役割分担の明確化と特色ある医療の提供			
1 県立病院の一体的・効率的な運営			
(1) 一体的な運営に向けた取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> ① 圏域内での医療安全管理専門員の相互支援(圏域内の研修会、ラウンド体制の調整):随時 ② 圏域内病院間の部門別業務応援、実務交流の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ CT・MRI画像の放射線科医による全件依頼読影、前日分の翌日依頼、二戸から放射線科医月1回来院読影 ・ 月1回診療放射線技師の実務交流:診療放射線技師全員の交流実施 ③ 年間計画による業務応援の実施 <ul style="list-style-type: none"> 二戸へ:4回/月、二戸よりエコー:4回/月、待機:2日/5週毎 ④ 基幹病院の栄養管理部門との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理師の業務指導又は受託会社との合同会議実施:業務指導又は合同会議開催 1回以上/月 ・ 管理栄養士の業務応援:管理栄養士の派遣 1回以上/週 ⑤ 圏域内の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域のニーズ把握、実行 ・ ブロック研修会の開催:1回/年 ⑥ 県北地域における精神医療の中心となり他病院と連携をとりながら、入院患者へのリハを確保すると共に外来患者への一体的・効率的なリハビリを提供する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来作業療法週3回実施 ・ デイケア運営にも参加し、精神科専門療法の提供に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 医療安全 放射線 検査 栄養 連携室(心理)(MSW) リハ2 	
2 地域の状況や各病院の特色等に基づいた各病院が担うべき役割と機能			
(1) 病院ごとの役割・機能の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ① 部門の体制に応じた救急体制の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急患者への必要な体制の確保(待機→オンコール制):時間外100%実施 ・ 入院患者、時間外の撮影に対する体制→待機体制の継続 院内受診患者の救急搬送の対応→搬送患者の患者データの転送メディアの検討 ・ 時間外における臨床検査の実施(待機当番者表にて実施):呼び出し100%対応 ② 訪問診療・訪問看護等の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問診療等に係るルールづくり:定例会の設置 ・ 訪問診療:1回/月 ・ 精神科訪問看護の充実:1,379件(1月末) ・ 訪問診療部門への参画:依頼へ100%対応 ・ 精神科におけるアウトリーチ機能の充実 訪問看護:5回/月、退院前訪問:3回/月 ③ 療養病棟の効率的運用 <ul style="list-style-type: none"> 転院受け入れ時の手順の明確化:マニュアル整備 ④ 県北における精神科の主幹病院として急性期から慢性期まで回復段階に応じた作業療法が受けられるプログラム構成とし、回復段階に応じて集団や個別を用いた効果的な作業療法を提供することで「早期退院」、「退院促進」を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小集団(数名)、中集団(10名前後)、大集団(20名前後)をバランスよく配置したプログラム構成とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤 放射線 検査 関係部門(医局・看護ほか) 検査 連携室(PSW) 連携室(退院調整・MSW) リハ2 	
3 他の医療機関・介護施設等との役割分担と連携			
(1) 他の医療機関、介護・福祉との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ① 薬業連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> 入退院時の情報共有の実施 退院時指導算定件数200件以上 ② 圏域内医療・介護関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ カシオペア地域医療福祉連携研究会への参加 世話人会出席:1回/月、研修会参加:3回/年 ・ 一戸町・ナーシングあいあいの連絡会:隔月 ・ 一戸町地域包括ケア会議出席:1回/月 ・ 一戸町地域包括ケアシステム検討委員会出席:6回/年 ・ 一戸町内介護・福祉関係機関との協働 一戸病院・一戸町介護福祉関係機関情報交換会の継続開催:2回/年 ・ 市町村保健事業への協力 5歳児健診への協力継続(一戸町、九戸村):6回/年 ・ 行政、福祉施設などの他職種と役割分担、連携して精神科リハビリテーションを進め、心理、SST、生活体験など退院を見据えたプログラムに関して他職種と連携して運営していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤 連携室(退院調整・MSW) (MSW) リハ2 	

取組事項	展開方向	目標数値等	主な担当部門
		プログラムの参加100% ・ デイケア参加の働きかけ 地域移行プログラム登録者増:6、7、8病棟全入院患者の15%以上を維持 地域定着の推進:デイケア見学者6、7、8病棟退院患者比15% ケア会議などに参加して情報の共有を図るなど患者の不利益を少なくする: ケア会議への参加率の向上	
4 地域との協働による病院運営			
(1) 広報活動等による県民理解の醸成(情報発信)		① ホームページ、広報誌等を通じた情報提供 ・ 医師、看護師等の募集、診療案内等患者への情報提供:随時 ・ 病院広報誌の定期発行と配付:4回/年 ・ 病院ホームページによる情報発信 掲載内容の集中見直し:2回/年 ・ 実績集の編集・情報集約(共有) ・ 介護・福祉に関する広報 連携室としての広報紙の発行:2回/年 ② 他部門への広報活動の推進 ・ 科内報の発行:1回以上/年 ・ 臨床検査技師による検査説明の推進:1件/月 ③ 看護からの情報発信・共有の推進 ・ 地域との連携(勉強会・講演会・各種行事等) 地域との勉強会・講演会等開催件数:57件 ・ ふれあい看護体験・サマースクール・インターシップの実施 参加人数対前年度比増(H26:17名) ・ 外来通信の発行対前年度比増(H26:7件)	各部門(事務) (医事)連携室 検査 看護
(2) 運営協議会等の開催		① 県立病院運営協議会(圏域)において県立病院の現状・課題等について情報発信、関係機関との共有:1回/年 ② 一戸町との意見交換会:1回/年	事務 事務
(3) ボランティアとの協働		① ボランティアの受け入れ ・ 継続:書道作品の掲示(不定期作品交換)、門松の設置 ・ 新規:院内行事でのボランティアの活用:随時	事務
II 良質な医療を提供できる環境の整備			
1 患者中心の安全・安心な医療の提供			
(1) 医療の質の確保		① 安全・安心で良質なリハビリテーションの提供 実施人数:13人、実施単位:17単位 ② クリニカルパスの推進 クリニカルパス適用率:20%以上維持(H26:22%) ③ 専門性の高い看護の提供 ・ 外来看護の充実に向けたシステムづくり ・ 認定看護師等の活用 認定看護師活用件数対前年度比増:7件以上(外部から) ・ 褥瘡対策の充実 褥瘡発生率・新規発生件数対前年度比減 褥瘡発生率0.007%以下、新規発生件数6件 ・ 精神科看護の充実(訪問看護・デイケア・地域との連携) 訪問:1,379件(1月末)、DC:889件(1月末) ・ 専門看護技術の充実(CV-PPP・口腔ケア) ④ 看護記録の充実(看護記録の質・形式監査) ・ 基準に沿った記録監査の実施 ・ 質監査の実施 看護記録監査結果:80%以上 ⑤ 患者サポート体制の充実 患者サポートカンファレンスの開催:1回/週 ⑥ 退院への支援活動 ・ 一般科での退院前訪問の実施:2回/年 ・ 精神科における長期入院患者の退院支援:5年以上3名/年	リハ1 看護・クリニカルパス推進委員会 看護 看護 看護 連携室 連携室
(2) 医療安全対策・感染対策の推進		① 患者誤認・部位間違い防止対策、転倒転落防止の対策強化→院内ラウンドにおける現場評価 ・ 発生件数の対前年度比減:患者誤認3件、部位間違い2件、転倒転落3a以上4件 ・ 転倒・転落対策の徹底 レベル3a以上の転倒・転落件数・転落発生率対前年度比減(H26.2:0.61%) ② 局ガイドラインのマニュアルの作成、見直し →院内暴力、チューブラインの承認・周知 ③ 院内研修の充実と研修後評価の実施 全体研修参加率90%以上 ④ インシデント事例の分析と情報共有(発生防止) ・ インシデントKYT実施、医療安全研修会への参加	医療安全(各部門) 看護 医療安全(各部門) 医療安全(各部門) 医療安全(各部門) 薬剤

取組事項	展開方向	目標数値等	主な担当部門
3	医療情報システムの整備		
	(1) 電子カルテシステムの計画的導入	① 電子カルテシステムの導入に向けた取り組み ・フルオーダーリング化への移行準備	各部門・事務 (医事)
III	医師不足の解消と医師の負担軽減に向けた取組の推進		
1	医師確保に向けた取組		
	(1) 医師の絶対数の確保	① 関係大学等への継続した派遣要請 ・岩手医大等への常勤医師派遣要請・派遣御礼等(随時) ・岩手医大地域医療支援委員会への派遣要請(9月頃)	事務
	(2) 初期研修医及び後期研修医の受入れ拡大	① 臨床研修医(精神科)のスキルアップ ・精神科レジデントへの講義(1回/月) ・臨床心理業務に関する講義:1回/月 ・精神保健福祉法に関する講義:1回/月 ② 宿舎の確保と環境整備(随時)	薬剤 連携室 事務(総務)
2	魅力ある勤務環境への改善		
	(1) 医師の業務負担の軽減	① 臨床検査技師による心・頸部エコーの実施 分野の拡大と予約100%の実施 ② 検査依頼(外注含む)に係るオーダーリングシステム活用の拡大 オーダーリングとした項目数(対前年度比増)	検査 検査
IV	職員の資質向上と人員の重点配置		
1	人づくり		
	(1) 計画的な人材育成・職員研修の充実	① 医療安全管理専門員研修会受講取得者の支援 研修40時間受講者1名 ② 医療安全研修会の充実(全体研修、各部門の研修会の企画・運営) 参加人数対前年度比増 ③ 専門資格取得の支援 NST40時間実施修練受講1名 ④ 基幹病院の薬剤部門との連携強化による人事交流実務研修の実施 がん化学療法業務研修(於二戸病院、新採用薬剤師) ⑤ 部門毎の積極的な職場研修実施 医薬品安全管理責任者による研修実施 ⑥ 各種研修会への積極的な職員派遣による資質の向上 医療局、職種別、圏域毎の研修会等院外研修への派遣:延べ5名以上 ⑦ キャリアデザイン・研修体制の強化・知識・技術の習得 ・チェックシートを活用した研修計画の実践:科内研修12回/年 ・院内・圏域・技師会等各種研修会・学会への積極的参加:参加10回/年 ⑧ 看護職員の人材育成の推進 ・新人看護師の育成(新人看護職員研修ガイドライン活用状況) クリニカルラダーB評価以上の割合:90%以上(H26:91.50%) ・看護管理者マネジメントラダーの活用 マネジメントラダーB評価以上の割合 (H26看護管理者マネジメントラダー活用実績:活用2回、100%) ・看護補助者研修・育成(看護補助者研修実施状況) 看護補助者ラダー活用状況B評価以上の割合 ステップ1 80%以上、ステップ2 90%以上 ・専門分野に挑戦する職場風土の醸成 ア 認定看護師数・専門看護師数 1名 (H26:0名(認知症看護師課程修了1名)) イ ファーストレベル修了者数 2名(H26:3名) ウ サードレベル修了者数 1名(H26:0名) ・看護研究の推進 看護研究発表演題数(院外発表):10題以上(H26:10題) ⑨ 事務担当者研修会等への計画的・積極的な派遣による職員の資質向上 ・医事経営課職員スキルアップ勉強会:1名以上 ・給与事務担当者研修会:1名以上 ・経理・契約実務研修会:1名以上 ⑩ 院外研修会・学会への参加、室内事例検討会によるスキルアップ ・本人が希望する院外の研修会・学会への参加:一人1回以上 ・室内事例検討会開催:1回/月 ⑪ 可能な範囲で研修会や学会への参加 ・伝達講習などを通して科内で共有 ・認定作業療法士、専門作業療法士の資格取得	医療安全 医療安全 薬剤 薬剤 薬剤 放射線 検査 看護 事務 連携室 リハ2
	(2) 人事考課制度の推進	① 育成面接等の計画的な実施	各部門
2	働きやすい職場環境		
	(1) 職員満足度の向上	① 職員満足度調査の実施(2年毎の調査) ② 勤務環境改善 産業医・幹部職員の院内ラウンドによる課題の共有と改善の取り組み(随時) ③ 看護職員の業務負担軽減の取り組み ・フィッシュ導入 ・一戸方式パートナーシップナーシング運用開始 ・他職種との役割分担:年2回以上他職種との話し合い ④ 得意分野を利用できるプログラム構成及び作業療法手順の簡略化(書式の簡素化)と超過勤務の縮減	各部門(事務) 各部門(事務) 看護 看護 リハ2

取組事項	展開方向	目標数値等	主な担当部門
		<ul style="list-style-type: none"> 効率的なプログラムの作成による効率の良い作業療法の実施 算定数5%増、超過勤務3%減 効果的な作業療法: 早期退院、退院促進 	
	(2) 選択可能な多様な勤務形態	<ul style="list-style-type: none"> ① 多様な勤務形態の検討・試行・導入 ・夜勤専従、看護補助者活用、育児短時間勤務制度等 ・時差出勤の導入 	看護
	(3) 仕事と生活の調和	<ul style="list-style-type: none"> ① 超過勤務縮減の取組 ・36協定の継続 ・業務の見直し等による超過勤務縮減 ・超過勤務時間の短縮(対前年度比減)(H26:1.92時間) 	各部門(事務) 看護
	(4) 職員の健康サポート	① 職員定期健康診断(電離放射線健康診断等を含む) 受診率100%	各部門(事務)
		② 予防接種、人間ドック等任意健診の周知	各部門(事務)
		③ メンタルヘルスクエア事業の活用	各部門(事務)
		<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス相談室(随時) ・ストレスチェック実施(第1回定期健康診断時(5~6月)) ・要配慮者等を対象としたセミナー・カウンセリングの実施(通年) ・長期休業者の職場復帰への支援活動・看護科通信の発信 復職者支援(H26:7名、100%) ・メンタルヘルスに関する研修会の企画 自殺予防に関する研修会の企画:2回/年 	看護 連携室
3 職員の適正配置			
	(1) 地域医療福祉連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域医療福祉連携に関する体制強化 ・室内ミーティングの定期開催 デイリーミーティング:毎日 拡大ミーティング:1回/週 	連携室
	(2) リハビリテーション等医療技術部門の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業拡大、サービス向上に向けた職員の増員 ・処方数の増加等に伴う増員要望:理学療法士1名 ・個人作業療法の拡大、訪問事業への参加増、プログラムの多様化及び社会情勢(早期退院・退院促進など)に合った作業療法(個人OT・小集団OTなど)の充実の提供のための増員要望:作業療法士1名 	リハ1 リハ2
	(3) 看護職員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護師確保活動の推進 ホームページ更新、就職説明会参加活動の実施 	看護
V 安定した経営基盤の確立			
1 事業運営体制の整備			
	(1) 経営企画機能の強化	① 医事経営課による経営分析と企画提案の推進 今後の病院の方向性を踏まえた施設基準取得要件等の検討 定例会議(管理会議・運営会議)への資料提出	事務(医事)
		② 診療情報管理業務の体制強化 入院患者の疾病分類と退院時要約作成管理 退院サマリー作成率100%	事務(医事)
	(2) 病院経営マネジメントの推進・経営目標の設定と進捗管理	① 経営目標及び収支計画の策定と定期的な検証 当初予算に基づいた収支計画の策定及び経営目標の設定と進捗管理の実施(毎月) 経営目標数値(※5月末までに設定)	各部門(事務)
		② BSCによる成果の検証と課題の分析 継続および習熟度向上	薬剤科
		③ 業務改善報告会への事例報告 各部門1題以上	各部門(事務)
		④ 数値目標・事業実務の定例報告 二戸圏域内地域病院としての業務実績を二戸病院へ報告(毎月)	放射線
2 収支均衡に向けた取組			
	(1) 収益の確保	① 施設基準の適正な運営管理 ・新たな施設基準届出の検討 ・既届出施設基準の算定要件の管理徹底 院内適時調査の実施と院内研修会の開催 施設基準に関する研修会開催 6月頃	事務(医事)
		② 診療報酬の適正算定 ・査定要因分析と査定防止対策の実施 診療管理会議における資料提供と対応策の検討 査定率(12月末累計) 0.03%以下 ・医事業務委託業者及び院内各職種との連携による指導料等の算定強化 診療報酬請求漏れ研修会開催 10月 ・担当者の効率的配置による薬剤管理指導算定件数の増加 前年度指導算定件数維持(1,200件) ・レセプト突合実施による算定漏れ防止(原因分析と対策) 毎月実施 ・効率的診療報酬算定への対応 医事経営課との連携によるご算定・算定漏れの防止 誤算定・算定漏れゼロ ・新たな検査項目・検査実施件数増の推進 医局会でのインフォメーション(件数増による評価)	事務(医事) 薬剤 薬剤 検査 検査

取組事項	展開方向	目標数値等	主な担当部門
		<ul style="list-style-type: none"> 適切な入院基本料取得、急性期看護補助体制加算取得取得状況等の確認(毎月) 必要勤務時間数の管理・在宅復帰率 重症度、医療・看護必要度の精度管理 選択及び特別メニューによる収益 選択及び特別メニューの件数維持:17,000件以上/年 栄養指導料の算定 個人栄養指導件数の維持:60件以上/月 栄養サポートチーム実施加算の算定 栄養サポートチーム実施加算の維持:20件以上/月 指導料等の算定強化 ①退院調整カンファレンスへの2職種参加:60件/年 心理検査医療報酬の算定増 前年度増(前年度126,000点) プログラム構成の見直しによる作業療法への参加数増 1日平均算定数5%アップ 	看護 栄養 栄養 栄養 連携室 リハ2
		③ 特別室の利用促進 <ul style="list-style-type: none"> 特別室の利用率向上に向けた診療部門との連携強化 利用促進に向けた患者への説明の工夫と徹底 特別室利用率(12月末累計)80% (H25:59.3%、H26:75.1%) 重症室管理加算・特別室利用の適正管理 重症室管理加算徴収率:100%(H26:100%) 特別室徴収率:100%(1B:100%、2B:97.3%) 	事務(医事) 看護 看護
		④ 高額医療器械の適正利用による収益の確保 オンコールの適時利用促進・稼働率の向上:利用率の対前年度比向上	放射線
(2) 費用の効率的執行		① 材料(診療材料等)の適正な管理 <ul style="list-style-type: none"> 診療材料検討委員会の定例開催、品目の見直し(同種同効品の整理統一及び廉価購入):随時 SPDデータを活用した情報提供:毎月 月別材料費、収益比較データの提供:毎月 医療局推奨品、二戸圏域における材料の統一化による費用の抑制 血液測定採血キット切り替えと損傷防止機構付きペン型注入器注射針の導入検討:2品目以上 後発医薬品使用拡大 後発医薬品数量割合55%、品目割合25%以上 薬品の適正な管理による資産減耗費の縮減 対前年度比減(H26 116,051円) 試薬・材料等の適正使用の推進 在庫管理の徹底とデットストックの縮減 収益に対する試薬購入割合対前年度比較3%減 試薬の共同購入品目の見直しと推進 試薬6品目 SPDと連携した精度維持・低コスト品への見直し 材料1品目 診療材料・薬品減耗时の適正処理 減耗品目と金額対前年度比減(H26:11件、36,141円) ② 省エネ(節電等)の取り組み <ul style="list-style-type: none"> エコマネージメントシステムに基づく取り組み 温室効果ガス(CO₂)使用量削減:△1.1%(エネルギー使用量削減) 照明設備の省エネ対策:蛍光管間引き、省エネタイプへの順次変更等 節電・節水の推進 エコロジーな冷暖房温度の設定 エネルギー使用報告による評価 	各部門(事務)・ 診療材料検討 委員会 医療安全 薬剤 薬剤 検査 検査 検査 看護
(3) 個人未収金の縮減		① 個人未収金の発生防止 <ul style="list-style-type: none"> 病院全体での発生防止の取り組み ポスター等の作成・配布による医療費助成制度や各種支払方法の周知 各部門連携による支払困難者に関する情報共有と連絡の徹底 クレジットカード払い、口座振替制度の利用促進 入院・外来収益に対する年度内個人未収金割合(12月末累計) 1.75%(H25:1.91%、H26:1.85%) 医療費助成制度の情報提供:入院時および退院時 ② 個人未収金の管理・回収の徹底、未収金管理体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> 個人未収金状況報告書の作成による管理 担当者会議等への出席による担当職員のスキル向上 回収困難・回収不能債権の適正処理 効率的・効果的な訪問回収計画の策定と定期的な訪問回収の実施 訪問回収実施回数 18回/年(H25:17回、H26:14回) 訪問回収金額 300千円(H25:224千円、H26:79千円) 	事務(医事) 連携室 事務(医事)

平成27年度軽米病院事業運営方針

【基本理念】

私たちは、地域に根ざした医療の実践と地域の保健・福祉との連携により、住民に信頼され親しまれる病院、地域づくりに貢献する病院を目指します。

【基本方針】

- 1 私たちは、少子高齢化社会に対応しながら、地域の一次・二次医療と県北における慢性期医療の提供に努めます。
- 2 私たちは、全ての患者の権利と尊厳を尊重し、安全で安心な医療に努めます。
- 3 私たちは、圏域の諸機関との連携のもとに、医療・保健・福祉が一体となった活動を展開するとともに、地域住民の健康の維持・増進に努めます。
- 4 私たちは、健全経営と効率的で良質な医療の提供に努めます。

【事業運営方針】

分野	重点事項	展開方法	H26指標等	H26実績等	平成27年度指標等
I 良質な医療が提供できる環境の整備					
1 満足度の高い良質な医療の提供					
(1)	診療応援体制の充実及び機能強化	①内科、循環器科、精神科、神経内科及び外科(月2回)の応援診療継続	週1回	週1回	週1回
		②二戸病院(内科、外科)、九戸地域診療センター(小児科)への診療応援	週1回	週1回	週1回
		③医師充足率100%の維持	100%以上	138.9%	100%以上
(2)	専門外来の充実	糖尿病外来	第1、第3金曜日	第1、第3金曜日	第1、第3金曜日
(3)	健康教室の開催	①生活習慣病教室	年6回開催	年6回開催	年6回開催
		②小児健康教室「にこにこ教室」(小学4年生対象)	年3回開催	年3回開催	年3回開催
(4)	診療連携の促進	①二戸・久慈医療圏内での連携強化	随時	随時	随時
		②九戸地域診療センターとの連携強化	随時	随時	随時
		③介護施設・福祉施設との連携、「保健医療福祉連絡会議」、「地域ケア会議」	月1回開催	月1回開催	月1回開催
(5)	近隣市町村との連携	①行政との連携により地域における医療・保健・福祉の実現	毎月定例会による連携	毎月定例会による連携	毎月定例会による連携
		②健康ふれあいセンターとの連携強化			
(6)	病院機能の明確化	各種会議、地域懇談会等において情報発信	随時	随時	随時
(7)	医師の勤務環境の改善	医療クラークの活用、医師と各部門との役割分担推進	医師業務の軽減	医師業務の軽減(心・頭部エコー実施)	医師業務の軽減(心・頭部エコー実施)
2 救急医療体制					
(1)	救急患者の積極的受入	①救急患者を断らない	100%受入	100%受入	100%受入
		②二次救急病院群輪番制の継続	年97回	年97回	年98回
		③救急車搬送患者の積極的受入	搬送率70%以上	搬送率75.1%	搬送率70%以上
3 医療の質向上					
(1)	看護の質の向上	受け持ち看護師の役割発揮と評価	70%	71.5%	70%以上
(2)	患者満足度調査の実施及び分析	①患者満足度の向上	不満・やや不満10%以下 満足・やや満足50%以上	不満・やや不満2.2% 満足・やや満足53.3%	不満・やや不満2.5%以下 満足・やや満足53.2%以上
		②当院独自の患者満足度調査を実施し、分析結果を公表	年1回		0 随時
(3)	委員会活動	①計画的な委員会開催と開催状況管理	随時	随時	随時
		②30分以内会議の推進	随時	随時	随時
(4)	クリニカルパスの推進	担当小委員会によるパスの見直しと症例の拡大	適用率21%	適用率18%	適用率20%以上
(5)	インフォームドコンセントの徹底	患者満足度調査等で評価	不満・やや不満5%以下 満足・やや満足55%以上	不満・やや不満3.2% 満足・やや満足51%	不満・やや不満3%以下 満足・やや満足52%以上
(6)	NST活動の実践	活動目標を設定し実践(ラウンドの実施)	週1回	週1回	週1回
(7)	病院機能評価への継続的な取り組み	各種マニュアル等の見直し等	随時	随時	随時
(8)	ホームページの充実	ホームページ管理と適時更新	随時	随時	随時
(9)	広報誌の発行	あしなみ(院内報)	定期的発行	年1回	年2~3回
		あかしや(院外報)	定期的発行	年1回	年2~3回
(10)	心のかよう接遇	①接遇研修の開催	年1回	年1回	年1回
		②「気配り・あいさつ」運動の推進	継続	継続	継続

分野	重点事項	展開方法	H26指標等	H26実績等	平成27年度指標等
4 各部門目標					
(1)	薬剤業務	①薬剤管理指導(指導料2,3)の推進	145件/年	114件/年	100件/年
		②退院時薬剤情報管理指導料	—	89件/年	90件/年
③入院患者持参薬の確認		依頼患者全対応	767件/年	入院時全患者対応	
(2)	栄養管理室業務	①栄養指導の拡大(継続指導の推進) (局方針 BSC)	25件以上/月	18件/月	19件/月
		②特別メニュー(1食100円)の導入・・・グレードアップを図る(新規…他の県病でも実施)	1回以上/月	10月より実施 1回/月	1回以上/月
II 医療安全の徹底					
(1)	医療安全対策委員会活動	①委員会毎月開催、研修会2回以上開催	毎月開催 研修会2回/年	毎月開催 研修会3回/年	毎月開催 研修会年2回以上
		②セーフティマネージメント部会の定期開催	月1回	月1回	月1回
		③インシデントレポートの分析及び対策	月1回	発生の都度	発生の都度
(2)	医療事故防止	①諸行為前後の安全確認の励行	無事故目標	6件	無事故目標
		②針刺し事故防止の徹底	0件	3件	0件
(3)	業務応援の充実と強化	①二戸・一戸・久慈病院からの薬剤師、放射線技師、検査技師、ME、MSW、WOCN、緩和ケアN、医療安全専門員の業務応援 ②言語聴覚士の業務応援(H26.12～久慈HPより月1回、H27.5～二戸HPより月1回に変更予定)	定期的応援	定期的応援	定期的応援
		①二戸病院への業務応援(検査、看護等)	随時の応援	・腹部・心エコー業務応援(相互)19回 ・定期業務応援20回 ・出張・年次等業務応援11回 ・土日待機応援15回(3週に1回) 看護等0件	・相互応援の推進(前年度比増) ・定期業務応援の継続 ・待機応援の推進(月2回) 随時
III 良質な医療を支える経営基盤の確立					
I 収益の確保					
(1)	効率的な病院運営	①経営企画機能の発揮(診療報酬改定への迅速な対応)	研修会の実施	年1回	年2回以上の開催
		②常に上位の施設基準を見据えた意識と対処	10対1看護維持	10対1看護維持	10対1看護維持
(2)	患者数の確保	①入院患者の確保			
		・一般病床(病床利用率)	50人(83%)	46人(77%)	50人(83%)
		・療養病床(病床利用率)	33人(73%)	30人(67%)	33人(73%)
(3)	収益の確保	②外来患者の確保	140人	139人	140人
		①入院1日平均単価	20,928円	21,815円	21,850円
		・一般病床	25,500円	26,496円	26,500円
		・療養病床	14,000円	14,648円	14,650円
(4)	差額病床利用の促進	②外来1日平均単価	5,750円	6,231円	6,300円
		差額病床利用率(徴収率)の向上	利用率70%(95%)	利用率42.1%(87.6%)	利用率50%(95%)
(5)	請求漏れ防止対策	①レセプト精度管理の計画的実施	月1回以上	毎月合同で1回	毎月合同で1回以上
		②医事経営課主催の部門別勉強会の開催	年4回	年3回	年4回以上
(6)	査定減防止対策	①査定率目標値の設定	0.05%以下	0.08%	0.05%以下
		②委託業者と査定内容検討会の実施	毎月	毎月ミーティングと兼ねて開催	毎月ミーティングと兼ねて開催
(7)	適正な未収金管理	①医事経営課と看護部門の連携による未収金発生防止	随時	随時	随時
		②過年度未収金高額滞納者との緊密な連絡、相談	随時	随時	H26年度末以下
(8)	収支計画と進行管理	①進捗状況の把握	毎月	運営連絡会議	毎月
		②全職員に情報の提供と共有	毎月	資料として提出	毎月

分野	重点事項	展開方法	H26指標等	H26実績等	平成27年度指標等
2 経費の節減					
(1)	効率的な費用管理 患者数とリンクした超過勤務時間数となること。 ただし、X線・検査は救急対応が主であり、一概には言えない。	①超過勤務手当の縮減 ※正規職員	25年度と同程度		26年度実績以下
		・看護 ・医療技術員 ・事務員	7,000千円 1,500千円 380千円	6,902千円 2,029千円 396千円	7,000千円 2,000千円 400千円
		②ノー残業デーの設定	各部門ごとに設定	各部門ごとに設定	各部門ごとに設定
(2)	材料費の節減	①薬品の適正管理			
		・採用薬剤品目数の目標設定(現770品目)	目標770品目	762品目	目標770品目
		・ジェネリック薬品の導入推進(現180品目)	目標170品目	178品目	目標180品目
		②診療材料費の節減			
		・診療材料検討委員会の定期開催	4半期毎	年2回	四半期毎
		・対医業収益比率目標値の設定(税込)	3.3%(堅持)	3.9%	3.9%以下
		・原価意識の醸成(材料原価の周知)	随時	年1回	年2回
IV 医療を軸とした幅広い地域サービスの展開					
(1)	地域病院としてのサービスの展開	訪問診療の継続	毎週木曜日	月2回～3回	月2回～3回
(2)	地域交流の推進	①夜の健康教室事業への継続協力	年2回	年2回	年2回
		②町の健康推進事業への積極的な参加		生活習慣6回 にこにこ教室3回 高校生講演8回	年17回
		③ふれあい看護体験の開催	年1回	年1回	年2回(5月、8月)
		④地域住民を対象とした介護教室の開催	年2回	年2回	年2回
(3)	心肺蘇生法(BLS)の普及	BLS受講者を中心とした地域住民への健康教室の開催	年1回		0 随時
(4)	地域とのふれあい	地域イベントへの積極的参加	軽米秋まつり	年1回	軽米秋まつり
(5)	地域ボランティアの積極的受入	構内、院内環境ボランティアの受入及び育成	年2回	年3回	年2回以上
V 環境への配慮					
(1)	エコマネジメントシステムの推進(目標設定と対策)	①エコリーダー会議の定期開催と計画的行動	PDCAサイクルの実践	PDCAサイクルの実践	PDCAサイクルの実践
		②環境管理マネジメントの運用管理			
		・A重油(24年度比△0.4%)	84,160ℓ以下	77,635ℓ	80,000ℓ以下
		・電気(24年度比△10.0%)	767,500kwh以下	713,368kwh	720,000kwh以下
		・ガス(24年度比△1.0%)	3,660㎡以下	3,488㎡	3,500㎡以下
		・水道(24年度比△20.0%)	8,750㎡以下	8,885㎡	8,885㎡以下
		③一般ゴミ減量化の取り組み	24年度比△1.1%	16,296kg	16,000kg以下
④一般廃棄物リサイクル率の推進(25年度11.9%)	12%以上	10.8%	11%以上		
		⑤環境マネジメントシステム関係研修会の開催及び啓蒙活動(運営連絡会議等において報告)	年2回以上	不実施	年2回以上
(2)	構内環境整備	構内美化の日を設定(4月～11月)	年2回以上	年2回(5/28、10/29)	年2回以上
VI 人材育成と意識改革					
(1)	職員の資質の向上	①職場研修の実施			
		②外部研修生の積極的な受入(医学生、看護学生、管理栄養士等)	随時	随時	随時
		③糖尿病療養指導士等専門資格者の養成	1名	2名	2名
		④糖尿病認定看護師養成と活動	—	研修受講1名	活動実績
		⑤育成面接の活用			
(2)	業務改善運動	①認め合い、讀えあう職場風土作り。ちよこっと改善発表会の継続	所属長表彰2題	改善発表9題、所属長表彰3題	所属長表彰
(3)	コンプライアンスの推進	コンプライアンス確立の日継続実施	月1回	月1回	月1回
(4)	心肺蘇生法(BLS)の習得	BLS受講による指導者育成と院内講習会全職員受講	2名	2名看護	随時
(5)	職員満足度の向上	職員満足度調査実施	年1回	年1回	年1回

平成26年度岩手県立病院等事業会計決算概要

損益計算書前年度比較

(単位:千円、%)

年度 科目	平成26年度			平成25年度			比較増減		摘要																								
	金額 A	構成比	費用 医収	金額 B	構成比	費用 医収	金額 C=A-B	増減率 C/B																									
1 医業収益	87,275,579	87.1	—	87,095,165	86.3	—	180,414	0.2	1 年間患者数 (人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度 a</td> <td>1,306,736</td> <td>2,026,398</td> </tr> <tr> <td>平成25年度 b</td> <td>1,324,662</td> <td>2,044,098</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>a-b(c)</td> <td>△ 17,926</td> <td>△ 17,700</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>c/b</td> <td>△ 1.4%</td> <td>△ 0.9%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	入院	外来	平成26年度 a	1,306,736	2,026,398	平成25年度 b	1,324,662	2,044,098	比較	a-b(c)	△ 17,926	△ 17,700	増減	c/b	△ 1.4%	△ 0.9%							
区分	入院	外来																															
平成26年度 a	1,306,736	2,026,398																															
平成25年度 b	1,324,662	2,044,098																															
比較	a-b(c)	△ 17,926	△ 17,700																														
増減	c/b	△ 1.4%	△ 0.9%																														
(1) 入院収益	55,867,084	55.7	—	56,294,861	55.8	—	△ 427,777	△ 0.8																									
(2) 外来収益	25,490,622	25.4	—	24,791,660	24.6	—	698,962	2.8																									
小計	81,357,706	81.2	—	81,086,521	80.4	—	271,185	0.3																									
(3) その他医業収益	5,917,873	5.9	—	6,008,644	6.0	—	△ 90,771	△ 1.5																									
2 医業外収益	12,857,564	12.8	—	13,664,708	13.5	—	△ 807,144	△ 5.9																									
3 特別利益	112,305	0.1	—	138,879	0.1	—	△ 26,574	△ 19.1																									
収益合計	100,245,448	100.0	—	100,898,752	100.0	—	△ 653,304	△ 0.6																									
(うち一般会計繰入金)	(14,301,607)	(14.3)	—	(15,003,877)	(14.9)	—	(△ 702,270)	(△ 4.7)																									
1 医業費用	92,228,523	72.3	105.7	90,563,678	92.3	104.0	1,664,845	1.8	2 一日平均患者数 (人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度 a</td> <td>3,580</td> <td>8,271</td> </tr> <tr> <td>平成25年度 b</td> <td>3,629</td> <td>8,343</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>a-b(c)</td> <td>△ 49</td> <td>△ 72</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>c/b</td> <td>△ 1.4%</td> <td>△ 0.9%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	入院	外来	平成26年度 a	3,580	8,271	平成25年度 b	3,629	8,343	比較	a-b(c)	△ 49	△ 72	増減	c/b	△ 1.4%	△ 0.9%							
区分	入院	外来																															
平成26年度 a	3,580	8,271																															
平成25年度 b	3,629	8,343																															
比較	a-b(c)	△ 49	△ 72																														
増減	c/b	△ 1.4%	△ 0.9%																														
(1) 給与費	52,901,455	41.5	60.6	51,598,619	52.6	59.2	1,302,836	2.5																									
(2) 材料費	22,390,811	17.5	25.7	22,013,679	22.4	25.3	377,132	1.7																									
(3) 経費	12,842,314	10.1	14.7	12,473,122	12.7	14.3	369,192	3.0																									
(4) 交際費	108	0.0	0.0	91	0.0	0.0	17	18.7																									
(5) 減価償却費	3,567,168	2.8	4.1	3,742,482	3.8	4.3	△ 175,314	△ 4.7																									
(6) 資産減耗費	109,565	0.1	0.1	324,789	0.3	0.4	△ 215,224	△ 66.3																									
(7) 研究研修費	417,102	0.3	0.5	410,896	0.4	0.5	6,206	1.5																									
2 医業外費用	6,736,475	5.3	7.7	7,223,272	7.4	8.3	△ 486,797	△ 6.7																									
(うち支払利息)	(2,456,965)	(1.9)	(2.8)	(2,663,124)	(2.7)	(3.1)	(△ 206,159)	(△ 7.7)																									
3 特別損失	28,646,672	22.4	32.8	336,398	0.3	0.4	28,310,274	8,415.7	3 患者一人一日当り平均収益 (円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度 a</td> <td>42,753</td> <td>12,579</td> </tr> <tr> <td>平成25年度 b</td> <td>42,498</td> <td>12,128</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>a-b(c)</td> <td>255</td> <td>451</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>c/b</td> <td>0.6%</td> <td>3.7%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	入院	外来	平成26年度 a	42,753	12,579	平成25年度 b	42,498	12,128	比較	a-b(c)	255	451	増減	c/b	0.6%	3.7%							
区分	入院	外来																															
平成26年度 a	42,753	12,579																															
平成25年度 b	42,498	12,128																															
比較	a-b(c)	255	451																														
増減	c/b	0.6%	3.7%																														
費用合計	127,611,670	100.0	146.2	98,123,348	100.0	112.7	29,488,322	30.1																									
医業損益	△ 4,952,944	—	—	△ 3,468,513	—	—	△ 1,484,431	△ 42.8																									
経常損益	1,168,145	—	—	2,972,923	—	—	△ 1,804,778	△ 60.7																									
純損益	△ 27,366,222	—	—	2,775,404	—	—	△ 30,141,626	△ 1,086.0																									
年度末累積欠損金	43,770,388	—	—	16,404,166	—	—	—	—																									
医業収支比率	94.6%	—	—	96.2%	—	—	△ 1.6%	—																									
経常収支比率	101.2%	—	—	103.0%	—	—	△ 1.8%	—																									
総収支比率	78.6%	—	—	102.8%	—	—	△ 24.2%	—																									
									4 病床利用率(稼働病床) (%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>一般</th> <th>療養</th> <th>結核</th> <th>精神</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度 a</td> <td>77.3</td> <td>61.6</td> <td>6.2</td> <td>74.1</td> <td>74.5</td> </tr> <tr> <td>平成25年度 b</td> <td>78.5</td> <td>61.1</td> <td>6.3</td> <td>70.5</td> <td>74.9</td> </tr> <tr> <td>比較増減 a-b</td> <td>△ 1.2</td> <td>0.5</td> <td>△ 0.1</td> <td>3.6</td> <td>△ 0.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	一般	療養	結核	精神	合計	平成26年度 a	77.3	61.6	6.2	74.1	74.5	平成25年度 b	78.5	61.1	6.3	70.5	74.9	比較増減 a-b	△ 1.2	0.5	△ 0.1	3.6	△ 0.4
区分	一般	療養	結核	精神	合計																												
平成26年度 a	77.3	61.6	6.2	74.1	74.5																												
平成25年度 b	78.5	61.1	6.3	70.5	74.9																												
比較増減 a-b	△ 1.2	0.5	△ 0.1	3.6	△ 0.4																												
									5 診療実日数 (日) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度 a</td> <td>365</td> <td>245</td> </tr> <tr> <td>平成25年度 b</td> <td>365</td> <td>245</td> </tr> <tr> <td>比較増減 a-b</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	入院	外来	平成26年度 a	365	245	平成25年度 b	365	245	比較増減 a-b	0	0												
区分	入院	外来																															
平成26年度 a	365	245																															
平成25年度 b	365	245																															
比較増減 a-b	0	0																															

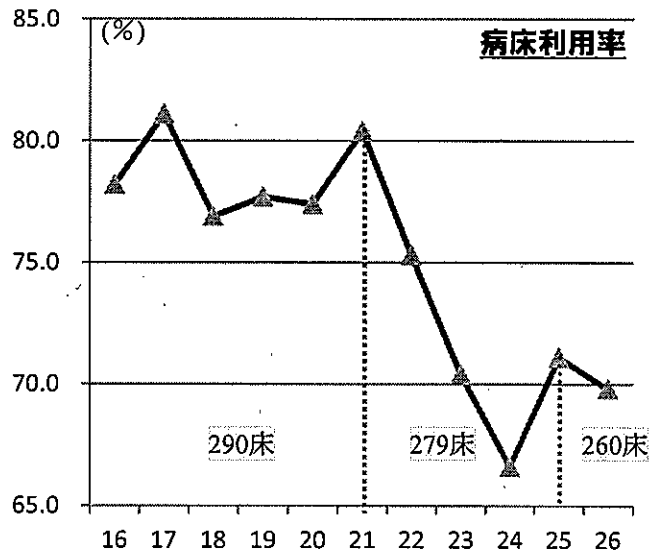
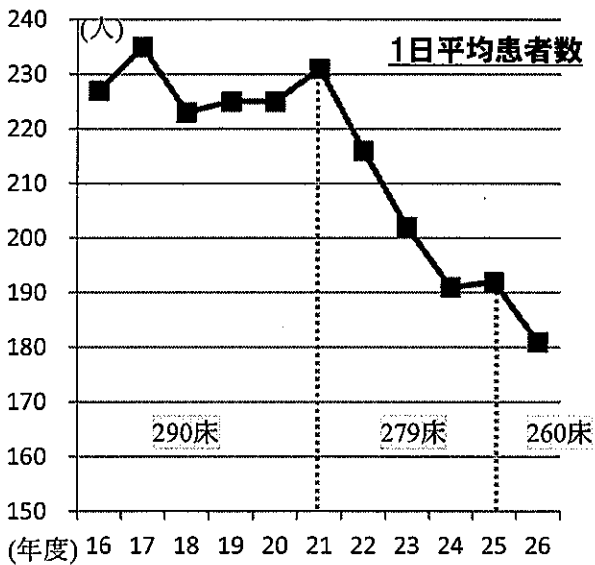
二戸病院の病棟再編について

1 背景

- ・ 総務省「新公立病院改革ガイドライン（平成27年3月31日）」：「病床利用率が過去3年連続70%未満の病院は抜本的な見直しを行うことが適当」「地域の医療提供体制を確保しつつ、病床数の削減、診療所化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直し…」
- ・ 「岩手県保健医療計画2013-2017」：二戸保健医療圏における基準病床数333床、既存病床数526床
- ・ 「岩手県立病院等の経営計画2014-18」：「病床利用率が概ね過去3年連続して70%未満の病院は、病棟の休止も視野に入れて病床数を見直し」

2 入院患者数及び病床利用率の推移（一般病床）

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1日平均患者数(人)	227	235	223	225	225	231	216	202	191	192	181
病床利用率(%)	78.2	81.1	76.9	77.7	77.4	80.4	75.3	70.4	66.6	71.1	69.8
平均在院日数(日)	19.2	19.4	18.3	17.4	18.6	16.4	15.5	14.9	14.1	14.1	12.9



⇒ 急性期病床数の適正化の観点から、

入院患者数の減少に対応した病床規模に再編＋看護体制の充実による療養環境の向上

3 平成27年12月1日病棟再編に伴う病床数

	再編後 a	再編前 b	増減 a-b	備考
稼働病床数	235	270	▲ 35	許可病床数 300
一般	225	260	▲ 35	〃 290
結核	10	10	0	〃 10
病棟数	4	5	▲ 1	

4 今後の方向性

- ・ 医療提供体制について、患者の重症度や看護必要度に応じた看護体制の確保に努めるとともに、基盤となる収支改善の取組をさらに進める。
- ・ 空き病床については、がん患者・家族サロンの開設（6県立病院が開設済）による療養環境の整備や臨床研修医室の拡充等により教育施設体制を充実させるなど有効活用を図る。

二戸病院の公開行事「第3回二戸病院祭」について

～テーマ「地域と共に、これからも」～

二戸病院祭は、地域の方々に病院の現場を知る機会を提供することによって、医療や病院を身近に感じ、関心を持ってもらうことを目的に、平成25年度から始めた病院公開行事です。

平成27年8月29日（土）10時から13時まで開催したところ、子どもや家族連れを中心に来場者数は300名を超え、施設や器械の見学や多様な体験、職員との触れ合いを通じて、地域の方々と交流を深めることができました。

今回も、二戸歯科医師会をはじめ、二戸消防署、社会福祉法人いつつ星会、二戸高等看護学院のご協力により、イベントを盛り上げていただきました。

来場者アンケートでは、このような企画の継続や病院運営に対する要望や意見も受けており、今後の病院運営に役立てていきたいと考えています。

《プログラムの概要》

1 見学・体験ブース

業務紹介・機器展示（地域連携、検査、臨床工学など）、CT3D体験・骨密度測定、リハビリ疑似体験、お薬相談、視力検査、血圧測定・手洗いチェック、体脂肪測定・栄養相談・ハンドマッサージ（看護学生）、口腔管理（歯科医師会）、救急車両展示・AED講習（消防署）、DMAT車両・装備品展示

2 市民公開講座

①二戸病院の今 ②介護施設における看取り～自分らしく生きる～（いつつ星会）
③X線不思議発見～検査装置を見てみよう～ 検査室で何をやっているの？

3 免震構造見学会

4 ふれあいコンサート（職員・看護学生）

5 イベント広場

